

# 女房装束「かさね色目」の可視化ソフトウェアの開発

A Software for Visualization of Japanese Ancient Court Costume:  
"Kasane-Irome"

小林 光夫 Kobayasi, Mituo  
岡部めぐみ Okabe, Megumi

電気通信大学 The Univ. of Electro-Communications  
電気通信大学 The Univ. of Electro-Communications

キーワード : かさね色目, 装束, 色空間, 可視化,  
ソフトウェア

key words : kasaneirome, costume, color space,  
visualization, software

## 1 はじめに

平安時代の貴族の女性たちは、身にまとう装束の色彩と自然が織りなす色彩との調和に心を配り、装束に用いた配色に季節感を表す風情のある名前をつけて呼びならわしたという。

かさね色目とは、このような装束の配色である。図1に示すように、1枚の衣の表と裏の色の取り合わせ(重ね、図1a)、および、その衣を何枚か重ね着したとき、襟や袖、裾に見られる衣の重ね合わせの配色(襲ね、図1b)からなる。

かさね色目に関する、服飾史や文化史の面からの研究は多いが、色彩学的な面からの研究は少なく、わずかに文献 [N, 1] が見られる程度である。

近年、文献をもとに染色布として再現されたかさね色目の資料がある。以下はその代表的なものである。

[N] 長崎盛輝：譜説 かさねの色目配彩考，京都書院，1987。

[M] 松本宗九：日本色彩大鑑 第2～4巻，河出書房新社，1993。

[T] 高島秀造(監修)：王朝の彩飾，東京美術，1969。

これらの資料はいずれも色票によるゆえ、装束としての着姿を彷彿とさせるものではない。

上述の3つの文献にある色布の測色データが文献 [2] に収録されている。

本研究では、このデータをもとに、かさね色目を画面上に装束姿として表示し、またその配色を色空間上に表示することができるソフトウェアの開発を目的とした。このソフトウェアを用いることにより、かさね色目の多面的な理解を深め、配色構造の比較検討を行なうことができる。

なお、本研究の一部は文献 [3] による。

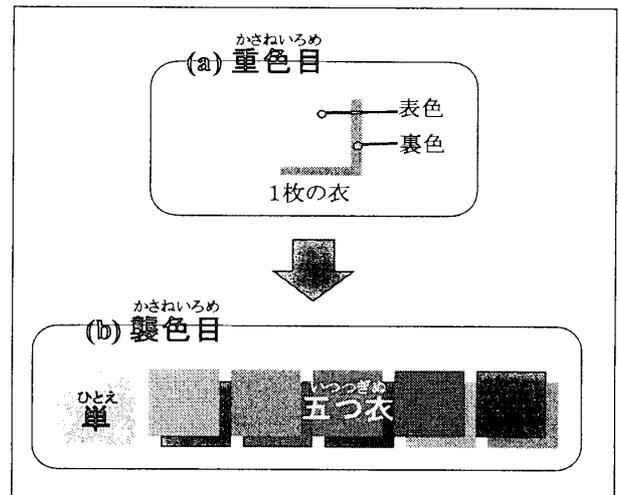


図1: 重色目と襲色目

## 2 ソフトウェアの機能

我々のソフトウェアは、以下の機能をもつ。

### 1. データ検索機能

文献、色目の名称、色目の名称を構成するキーワードによる検索を行なう。

### 2. 2通りの配色方法

- 襲色目の測色データをもとに配色を行なう。
- 48種とされる基本色から重色目および襲色目の配色を再構成する。

### 3. 色目の色帯表示

着姿による表示とは逆に、装束にとらわれずに配色の特徴を見るために、色目を色帯(カラーバー)で表示する。

### 4. 装束としての2通りの表示

- 晴(公け) および襲(平常)における1人の女性の装束姿  
配色の詳細を見るときに用いる。
- 物語絵巻の場面における複数の女性の装束姿  
当時の様々な場面や情景の再現、または古い絵画の色再現の手助けとしてに利用することができる。

### 5. 色空間における配色の可視化

Munsell や NCS など、分析に適した色空間を選択できる。2次元と3次元の表示が可能、2次元表示は詳細な情報を見るときに、3次元表示は全体的な構造を見るときに役立つ。この機能は Colorcel[4] のライブラリを組み込むことによって実現する。

### 6. 可視化画像の表示方法

複数のウィンドウを用いた表示を可能とする。これにより異なるかさね色目や、異なる場面や季節などの比較が可能となる。

## 3 使用例

文献 [N] による「紅匂の衣(女官飾抄)」を可視化したときの実行画面の一部を図2に示した。

画面の左部分は襲色目のリストであり、紅匂の衣が選択されている。中央には晴装束の姿が表示されている。右部分には NCS 色空間における配色が表示されている。上から色三角形、色円、色立体の画像である。右下の四方向の矢印ボタンは色空間の立体図の視点を移動させるものである。

色空間の観察から、「紅匂の衣」の配色は、色三角形上ではほぼ同じ色みをもち、色円上では赤の色相の集合と対照的に、1つだけ緑の色があることから、その色がアクセントとして用いられていることが分かる。これで、文献 [1] の結果が確認された。

## 4 おわりに

本研究では、「かさね色目」の多面的な可視化を可能とするソフトウェアを開発した。このソフトウェアの利用範囲は広いであろう。

たとえば、退色した色彩の再現や、源氏物語など書で表された場面の再現にも利用することができる。さらには、時代や服飾に因わず、現代の洋服やインテリアなどの画像にかさねの配色を用い、平安時代の色彩美を現代に甦らせることもできよう。

本研究を進めるにあたって、ご多忙の中御協力頂いた国立歴史民俗博物館の鈴木卓治先生、澤田和人先生に、心より感謝します。

## 参考文献

- [1] Kobayashi M., Takahashi M., Suzuki T.: A Computational Analysis of Color Combination in "Kasane-Irome", Japanese Ancient Court Costume, Proceedings of AIC Color 2001 SI Color & Textiles, pp.134-141, Maribor, Slovenia, 2002.
- [2] 小林光夫, 鈴木卓治: 日本伝統色復元色票データベース, 国立歴史民俗博物館研究報告 (2003年 出版予定).
- [3] 岡部めぐみ: 「かさね色目」の可視化ソフトウェアの開発, 2002年度卒業論文, 電気通信大学, 情報通信工学科, 小林光夫研究室, 2003.
- [4] 小林光夫, 鈴木卓治, 小川佳美, 高橋良: 色彩研究のための色彩情報処理ソフトウェアの設計と Windows-Excel への組込み, 日本色彩学会誌, Vol.25, Suppl. (第33回全国大会要旨集), pp.14-15(2002).



図2: 実行画面